

無作為抽出市民ワークショップの実施結果について

第六期長期計画・調整計画策定に向け、普段市政に参加する機会があまりない市民の方から討議要綱に対して広く意見聴取を行うため、対面及びオンラインにて市民ワークショップを実施した。対象は、令和4年12月1日時点で市内に住民登録のある18歳以上の方で、2,000名を無作為で抽出した。なお、本ワークショップの運営は「市民ファシリテーター」が参加者である市民の目線に立って、当日の全体進行及び各グループで対話の進行を担った。

1 概 要

| 日程 | 会場 | 参加者 | 流れ |
|----------|-------------|-----|---|
| 3月5日(日) | 武蔵野芸能劇場 | 31名 | (1) ワークショップ及び計画策定の流れを説明 (2) グループワーク 【前半】 討議要綱に関する市職員説明を聞いて感じたこと(期待や不安等) |
| 3月12日(日) | オンライン(ZOOM) | 24名 | 【後半】 期待を実現するため・不安を解消するために市民の力で何ができるか、行政からどのような支援が必要か (3) 全体共有 |

2 主な意見

| 分野 | 説明を聞いて感じたこと | 市民の力でできること等 |
|------------|---|---|
| 健康・福祉 | <ul style="list-style-type: none"> 高齢者が地域のコミュニティやボランティア等に参加できるきっかけづくりができるとよい。 福祉はボランティアのイメージがある。給与収入を伴うような福祉の形を検討してもよいのではないか。 | <ul style="list-style-type: none"> 日ごろから近所の方と知り合いになっておくことが防災にもつながる。 シニア世代の就労支援として、市民参加型で担えるような仕組みを、行政と市民で検討する。 |
| 子ども・教育 | <ul style="list-style-type: none"> 「むさしのクレスコーレ」やヤングケアラーの問題について、市民や当事者である子どもが認識していない。 子育てしていると孤立しやすい。 | <ul style="list-style-type: none"> チラシやポスターなどを活用し、支援内容や支援施設があることを周知する。子ども食堂や勉強する場を備えた相談できる施設「駆け込み寺」があるとよい。 近所付き合いを通して、困っている人を市民同士で見つける。それらでできた学校や保育園以外のコミュニティは防災などにも役立つと思う。 |
| 平和・文化・市民生活 | <ul style="list-style-type: none"> 戦争体験の次世代への継承が必要ではないか。 コミュニティセンターで何をやっているのか知らない。まちの情報を得られるとよい。 | <ul style="list-style-type: none"> 戦争経験者が若い人たちに伝承・継承する機会を創出する。 まずはコミュニティセンターに行くようにして、利用してみる。 |

| 分野 | 説明を聞いて感じたこと | 市民の力でできること等 |
|------|---|---|
| 緑・環境 | <ul style="list-style-type: none"> ・民有地の緑が減少していることは知らなかった。 ・ごみの分別が徹底されていない。特に若い世代の方にどのように分別の意識を根付かせるか。 | <ul style="list-style-type: none"> ・自然に触れる機会が少ないため、保育園などと連携し、樹木を植える体験会を実施する。 ・ごみ分別に関する市民クイズを実施し、わかりやすく楽しく分別を学べるような機会を創出する。 |
| 都市基盤 | <ul style="list-style-type: none"> ・吉祥寺駅前の景観が年々劣化していると感じている。看板に規制をかけるなど工夫ができないか。 ・自転車専用道路を利用する方が多いと感じている。利用者が集まれるような工夫ができるとよい。 | <ul style="list-style-type: none"> ・駅前の看板について、エリアを分けて自由に掲載できる場所とそうではない場所をつくることで、まちづくりを意識した良好な景観を維持する。 ・中央公園横のサイクリングロードの終点をエコ re ゴートにし、周辺に商店やカフェなどを併設することで、賑わいを創出する。 |
| 行財政 | <ul style="list-style-type: none"> ・市役所に来庁し、行政サービスを受ける機会が稀であるため、どの部署でそのようなサービスを受けられるかわからない。 ・市報を読まない。若い世代に市の取り組み内容を知ってもらうことが重要。情報が多様化する中で大事な情報が埋もれてしまうのではないか。 | <ul style="list-style-type: none"> ・実際に行政サービスを利用した際に、感想や改善点を市に対して意思表示することでよりよいサービスの向上につなげる。 ・自分から情報を取りに行く姿勢が大事。月に2回配布される市報に目を通し、家族や友人、近所の方と共有する。週1回「武蔵野市」を検索する。 |

3 当日の様子

3月5日（日）@対面（武蔵野芸能劇場）



3月12日（日）@オンライン（ZOOM）

